レッサーパンダの人工哺育の実態調査アンケートの結果を参考にした人工哺育改良例

○碇　捺名、伊藤咲良、五十嵐多鶴子、髙田瑞希
（横浜市立よこはま動物園）

2025 年 6 月 25 日に横浜市立よこはま動物園で出生したシセンレッサーパンダ（*Ailurus fulgens styani*）2 頭のうち 1 頭は巣箱外で衰弱していたため人工哺育に切り替えた。国内の人工哺育による成育率は約 52%であり、当園でも過去 3 例中成育は 1 例のみのため、2022 年に実施したレッサーパンダの人工哺育に関するアンケートの結果を参考とし、哺育方法の改良を試みた。

代用乳はパンダミルク（パンダミルク-10®）を濃度 11%で調乳した。哺乳量は体重の 25%を日量とした。哺乳回数は 44 日齢まで 1 日 5 回、45～110 日齢まで 4 回、111～122 日齢まで 3 回、123～148 日齢まで 2 回、149～154 日齢まで 1 回であった。

アンケートの調査結果では、下痢もしくは便秘のいずれかあるいは両方が見られることが多かったが、今回便状が悪化することは一度もなかった。低濃度かつ一日の総哺乳量を多く与えたが、発達の推移は他の成育例と同程度であり、成長に必要な栄養は摂取できたと考察する。